

国の施策も経済界の提唱も、街の活性化に町や村の持つ財産の活用を中心としています。その君津市の財産とは緑豊かな大自然、「三船山」「鹿野山」「三石山」、「三島」「豊英」「片倉」「亀山」の湖。「小櫃平野」「小櫃川」「小糸川」「上総掘りの湧水」「神野寺」「三石観音寺」「九拾九坊遺跡」「久留里城」「秋元城趾」「鹿野山麓の句碑と伝説」「人見・近江屋甚兵衛」「久留里・新井白石」「坂田・大牧新左衛門」「常代・高間伝兵衛」「植畑・秋山平六」等、数え切れない歴史と文化の財産があります。

今、観光と信仰とは密接な関係があり、もっとこうした財産の活用が必要と思われます。神野寺へ訪れる人は年間10万人、マザー牧場へは85万人と言われます。併せて釣り、花火大会でにぎわう湖があります。鹿野寺の句碑供養、全国俳句大会も余り地元では知られていません。来訪者と君津市の観光資源を結びつける工夫がまだまだ足りないと思われます。

また、君津市の基幹産業である、日本の製造業を代表する新日本製鐵(株)君津製鐵所は、市外の人たちにとってはすばらしい鉄と火のドラマとなります。是非観光コースに開放してもらい、人見地区の活性化の一助としたいものです。

小櫃平野は、かつて文部省が関東の子供たちの合宿、大規模なスポーツ大会ができる場所として、農家の地主達がオーナーとなって「テニスコート」「グラウンド」「プール」「合宿所」を作ってもらえないかと要望がなされたが、地元の方がこれに対応をしなかったと伝え聞きました。今となっては非常に残念なことと言えます。新しい知恵を出し合い、地元活性化策が早急に確立されることが必要です。

また、不況を脱するまでの期限付きで、市役所、農協、製鐵所等、大型需要者においては、市内の業者育成のために、地元優先購入を強く要請し、循環型消費経済の理解、ご協力をお願いしたい。